

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	体調急変時及び事故発生時に必要とされる知識や応急手当の習熟度が職員によって異なる。また、夜勤者のみになる夜間帯の体調急変を不安に感じる職員もいる。	体調急変時及び事故発生時に適切かつ迅速に対応できるよう、全職員が一定レベル以上の知識と応急手当の技術を身につける。	体調急変時及び事故発生時の医療的知識と応急手当について、併設施設の看護師による研修会を開催する。	3ヶ月
2	25	深夜でも寝付けなかったり、昼夜が逆転してしまう入居者がいる。そういった方の生活リズムを整えられるように取り組む必要がある。	医師や看護師等医療職への相談と併せて、入居者一人ひとりの暮らしのリズムを把握し、夜間不眠や昼夜逆転になってしまう状況を改善する。	センター方式の「24時間生活変化シート」等を活用し入居者の生活のリズムや時間ごとの状況を把握する。把握した内容を検討してケアプランへ反映し、職員間で統一されたケアを提供する。	6ヶ月
3	3	現在、地区社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携し地区介護者サロンを開催しているが、増加傾向にある認知症高齢者に対する理解を地域内でさらに広めていく必要がある。	認知症高齢者への理解や支援の方法を地域住民の方々へ広め、見守り協力体制を作ることで、認知症の方であっても安心して暮らすことのできる地域を作る。	併設施設であるとかみふれあいセンターと共に徘徊模擬訓練を実施する。実施にあたっては地域住民や地域関係団体へ参加を要請し、認知症の方への声掛けや保護の方法についての研修会を同時に開催する。	3ヶ月
4	28	これまで事業所内で活動するボランティアは限られていたが、地域資源である住民ボランティアをより幅広く受入れて開かれた事業所にしていく。	地域資源である住民ボランティアからの協力を得て、入居者の日常生活や行事をさらに豊かで楽しいものとする。	併設施設と合同で組織しているボランティア委員会を通して認知症に理解のある住民ボランティアを募り、日常生活での関わりや行事の際の協力を依頼する。	6ヶ月

5				ヶ月
---	--	--	--	----

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

